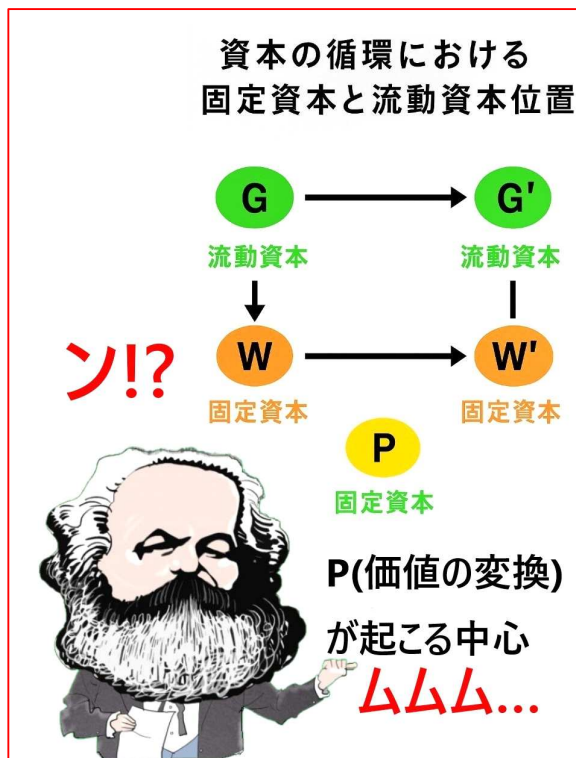


# 第81回「資本論を読む会」案内

# DAS KAPITAL

☆11月24日（月曜日）午後6時30分Zoom開催

第2編 資本の回転 第8章「固定資本と流動資本-第2節 固定資本の構成部分、補填、修繕、蓄積」[岩波文庫(四)p248-]



第80回「資本論を読む会」は10月27日(月)に開催。参加は7名。段々参加者が少なくなる?今回は第7章「回転期間と回転度数」と有名な第8章「固定資本と流動資本」に入りました(今回は第1節形態上の区別のみ)。聞いたことがあるとは思いますが「固定資本(機械・建物など)は時間をかけて価値を移転し、流動資本(原材料・労働力など)は即時に価値を転化する。」資本の回転数(n) = 1年間(U) ÷ 資本の回転時間(u)。レポーターTak氏の説明によると、どうやらブルジョア経済学者達は、この流過程の「資本循環の三形態(貨幣資本・商品資本そして生産資本)の区別をせずに、にさらに資本循環を資本の回転と区別して考察せず混同している。」とのこと(p227-229)。

また固定資本といっても、減価償却の速度が速くて流動資本に近い性質を持つものや、価値移転しないが、企業活動に不可欠で資本価値の回収が長期にわたる事務所や管理設備みたいなものもあること。

流動資本も遠隔地から輸入される原材料などは生産に時間が長くなるため、資本の回転が遅くなり、

固定資本的な性質を帯びること、などが話されましたね。少し難しかったようですが(半分くらい議論なし?)、そのまま次回に行きます。レポーターのTakちゃんご苦労様でした。夜の懇親会は事務局怠慢で記録無しのため忘れちゃった。でも、とりとめもなく有意義な話にはなったと思いますよ。※上AI作成図はどう説明したら良いか??私もよく分からない。自由に解釈してください。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから-Takちゃん

## 第二編 資本の回転 第七章 回転期間と回転度数

資本の総流動期間は、流通期間と生産期間の和に等しく、それは資本価値の前貸しの瞬間から、同一形態での資本価値の復帰に至る期間である。

個別資本の周期的過程で、繰り返される個別の循環・同一過程は資本の回転と呼ばれ、その継続期間は、資本の回転期間をなし、それは資本の前貸期間である。

## 第八章 固定資本と流動資本 第一節 形態上の区別

固定資本は、生産過程でその使用形態を保持し生産物には入らず、労働過程で繰り返して同じ機能をやる。工場・機械などの労働手段はそれである。また、使用価値と共に失われる交換価値を生産物に引き渡し、その価値移転は平均計算され、使い切られるまでの平均的持続で測られる。

固定資本は労働過程の要因として機能し、生産的に消費され個人消費には入らないが、流動資本は生産物の要素として商品となり流通に移りし、一部は個人消費される。

結論として、

(1) 固定資本および流動資本という形態規定は、生産過程で機能する生産資本の回転の差異からのみ生ずる。この回転の差異は、生産資本の種々の構成部分はその価値を生産物に移す仕方の差異から生ずる。だから両者の分割は、生産資本で生ずるのであり、商品資本と貨幣資本には存在しない。

(2) 固定資本の回転・回転期間は、流動資本のいくつかの回転を包含する。

(3) 固定資本の資本価値は、全部が一度に前貸しされ流通に投げられる。しかしそれは、商品に付加される価値の実現で、少しずつしか流通から引き上げられない。

(4) 流動資本の諸要素は絶えず現物で更新されるが、固定資本は、機能期間中に旧品が消費された後に同種の新品に更新される。

労働力も回転では流通資本に含まれ、不断に更新され、往々にして人員の交替により更新される。

